

## 余市川 ―ハヤブサの水浴び―（余市市）

神田 建男

清流、余市川が私のフィールドです。余市川はアユつりの北限の川として知られ、夏は多くのつり人で賑います。浅瀬でそっと川面に顔を近づけてみると、つまようじの半分にも満たない魚の群を見ることが出来ます。また別の所では人の指ほどの稚魚の群が黒いかたまりになって泳いでいました。流れの中にはこのような場所が沢山あり、そのいくつかは、私の好きなカワセミやヤマセミの恰好の餌場になっています。

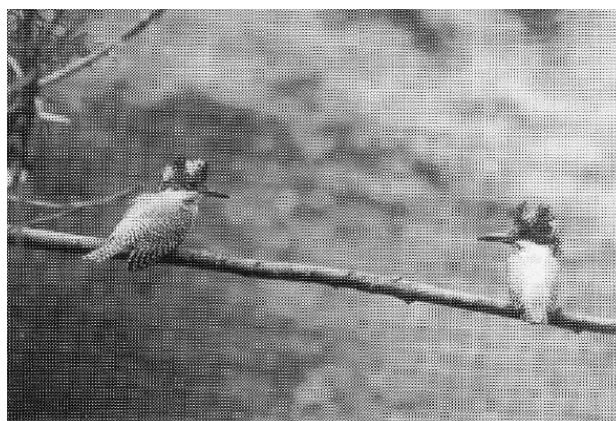
彼らは警戒心が強いので観察する時はブラインドを使っています。簡単に組立てが出来るように考えて作りました。私のブラインドはとても小さく、いちばん大きなもので1.35m四方です。川辺の葦の間に迷彩テントを使って作るので、つり人にも気付かれることはありません。

カワセミ、ヤマセミの休息の枝や餌場から25~30mぐらいの所に数カ所作りました。カワセミは初めからほとんど警戒しませんでした。ヤマセミも数日で慣れてくれました。「双眼鏡を持っていつものブラインドへ」―これが私の休日の最大の楽しみです。今年はこのブラインドの中からヤマセミやカワセミのダイビング、エサ運び、水浴び、休息、キセキレイの子育て、イソシギ等を観察することが出来ました。

―そして今年最大の出来事―7月6日川の中州に大きな影が舞い下りました。そっと双眼鏡をのぞく。ハヤブサだ！（心臓がバクバク）周りを警戒している。幸い今日はつり人はいない。そしてゆっくり、ゆっくり水浴びを始めた。気持ち良さそうだ。ほんの数分間のことでしたが堪能させてくれました。

ブラインドの中にはいろんな虫が入って采ますが驚いたのはスズメバチ、3回。すぐに逃げ出しました。あまり大騒ぎせず、サッとその場を離れるのがいちばんのようです。数分がいなくなってしまうました。

ヤマセミは7月23日午前11時に1羽巣立ちしました。朝から親鳥が魚をくわえて巣穴の回りで騒いでいたので「巣立ち今日」と確信していました。巣穴はブラインドから離れているので巣立ちの瞬間は見る事が出来ませんでした。若鳥は墜落寸前の小型飛行機のような飛び方をしていました。翌日、ブラインドの前の枝へ親が若鳥をつれて来てくれました。



巣立ちした若鳥（右）と親

清流といわれる余市川も近年、ゴミや生活排水などで汚れが目立って来ているようです。7月10日には長いつり糸を足にからませて上空に行くセグロカモメを見ました。もとの清流をとり戻そうと条例制定の動きもあり、住民の関心も高まっています。

鳥を見るには、仁木大橋、その上流の砥の川橋付近までが良いと思います。運が良ければ橋の上からカワセミのダイビングを見ることが出来ます。国道5号線からすぐ近くです。

ー余市川の周辺の鳥ー

カワセミ、ヤマセミ、ミサゴ、キセキレイ、ハクセキレイ、コチドリ、イカルチドリ、ソリハシシギ、カッコウ、カワラヒワ、ニュウナイスズメ、アオジ、ウグイス、オオヨシキリ、モズ、イソシギ、カモメ類、まれにハヤブサ等